

令和 4 (2022) 年度 学校評価結果

(1) 本年度の重点目標

- ①「働き続けるために必要な力」の内容及び指導方法について共通理解を深め、各指導場面における指導の充実及び定着を図る。
- ②生徒自身が主体的に学び、行動できることを目指して、生徒が自己肯定感（有用感）を高め、自己理解を深められる指導の充実及び定着を図る。
- ③生徒が自らの安全・健康を守るために必要な判断や行動ができるようになることを目指して、日常の生活指導や安全に関する学習・指導の充実及び定着を図る。
- ④地域社会（家庭、企業及び関係機関）に向けて、本校の教育方針や教育活動の情報（ねらいと手立て：障害特性等への対応・配慮等）を分かりやすく発信する。

(2) 評価項目

- ①共通教科における社会的・職業的自立に向けた学習内容及び評価の在り方を検討し、教員の授業力向上を目指す。
- ②これまでに収集した実習評価や企業アンケートの結果等から「働き続けるために必要な力」を分析することで、指導への還元を図る。
- ③専門教科を担当する全教員の指導力向上を図る。
- ④生徒自身が自分の長所と課題を理解して、自ら考え行動できるよう支援する。
- ⑤生徒自身が学校行事や委員会活動、部活動に関心を持ち、主体的に取り組み、責任感を持って活動できるように支援する。
- ⑥生徒が自らの安全、健康を守るために必要な判断や行動が主体的にできるようにする。
- ⑦危険回避能力、危険予測能力を身に付けるように支援する。
- ⑧年間を通して、継続して地域社会に向けて本校の情報を発信する。

(3) 評価結果

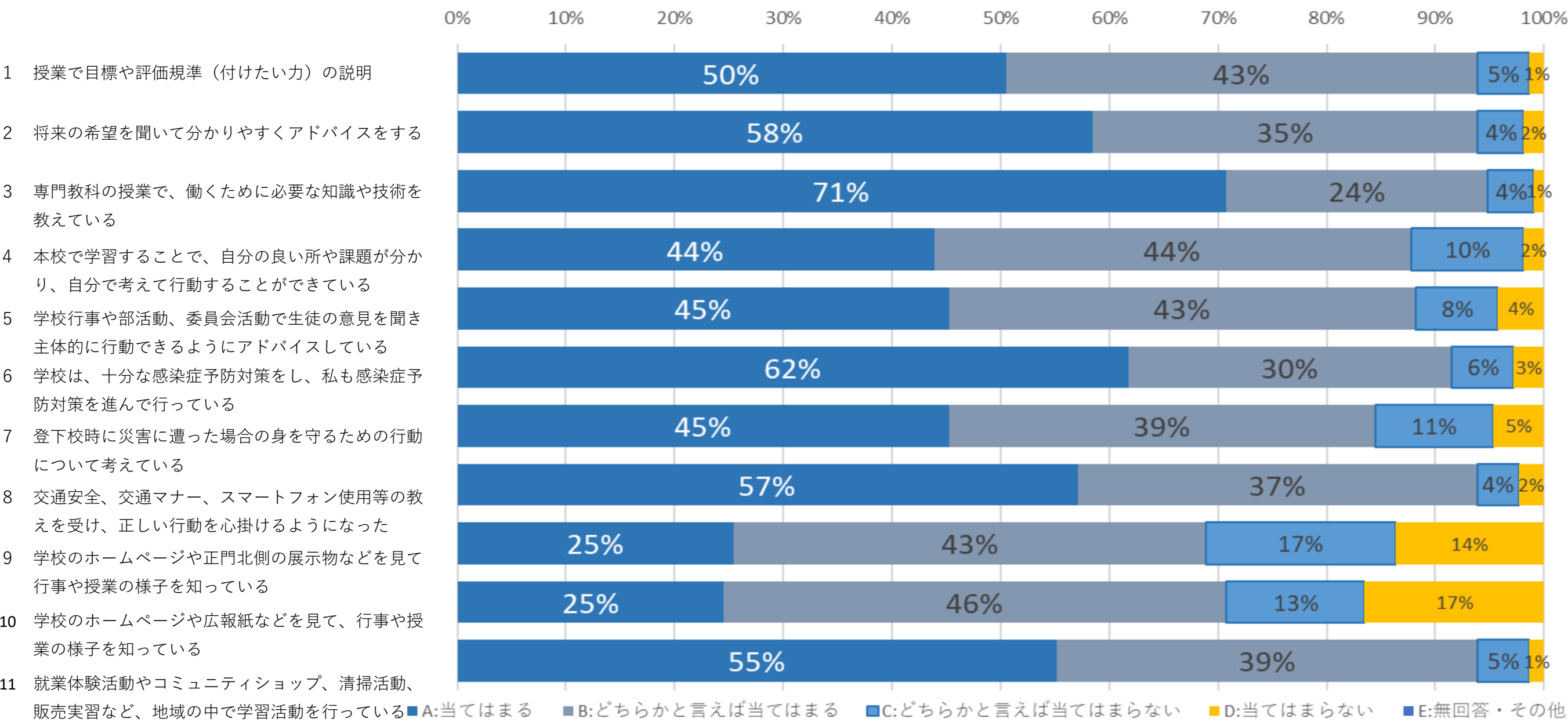
今年度の重点目標については、ある程度達成という評価だった。
評価に当たって明らかになった改善点については次年度以降取り組んでいく。

(4) 改善に向けた今後の取組

- ①重点目標 1 について
 - ・学習指導要領の 2 段階目の目標を目指した授業改善に向け、学習指導に関する研修や授業研究等を通して効果的な指導法を共有するなど、学校全体の授業力の向上を図るための計画立案
 - ・卒業生に関する状況調査や実際の卒後支援での課題の分析を継続し、働き続けるために必要な力を明確にするとともに、実習評価表や実習日誌等の見直しなど学習活動への反映
 - ・次年度は今年度の体制を基本とし、各分野、学年の実情に応じた柔軟な指導体制の整備の推進
 - ・各分野内で取り組んだ「成果」と「課題」を分野間でも共有できる体制の構築
- ②重点目標 2 について
 - ・教員が準備や段取り、提示の方法等を精選し、生徒が考える場面を意図的に設定
 - ・生徒に分かりやすい評価の工夫
 - ・各行事で生徒の意見や考えを取り入れる
 - ・目標設定、振り返りシートを見直し、より多くの行事や活動で導入
- ③重点目標 3 について
 - ・引き続き、情報収集に努め、感染症レベルに応じた対策と指導
 - ・避難訓練後の振り返りと、登下校中で災害に遭った場合について考える機会の設定
 - ・社会人としてのマナーや規範意識を高めるための指導の継続
 - ・危険予測、危険回避能力を向上させる分かりやすい授業の計画、実施
- ④重点目標 4 について
 - ・年間を通した計画的な展示と発信
 - ・地域向けの情報発信と校舎内での啓発の工夫
 - ・PTA活動や同窓会活動を定期的に紹介
 - ・生徒が学校のHPに関心を持つような働きかけ
 - ・より多くの人が関わった活動ができるよう、進め方、実施体制の更なる検討
 - ・様々な手段での情報発信

令和４年度 学校評価アンケート（生徒対象）

回答総数：212



○生徒対象アンケートに基づく評価：概ね達成した

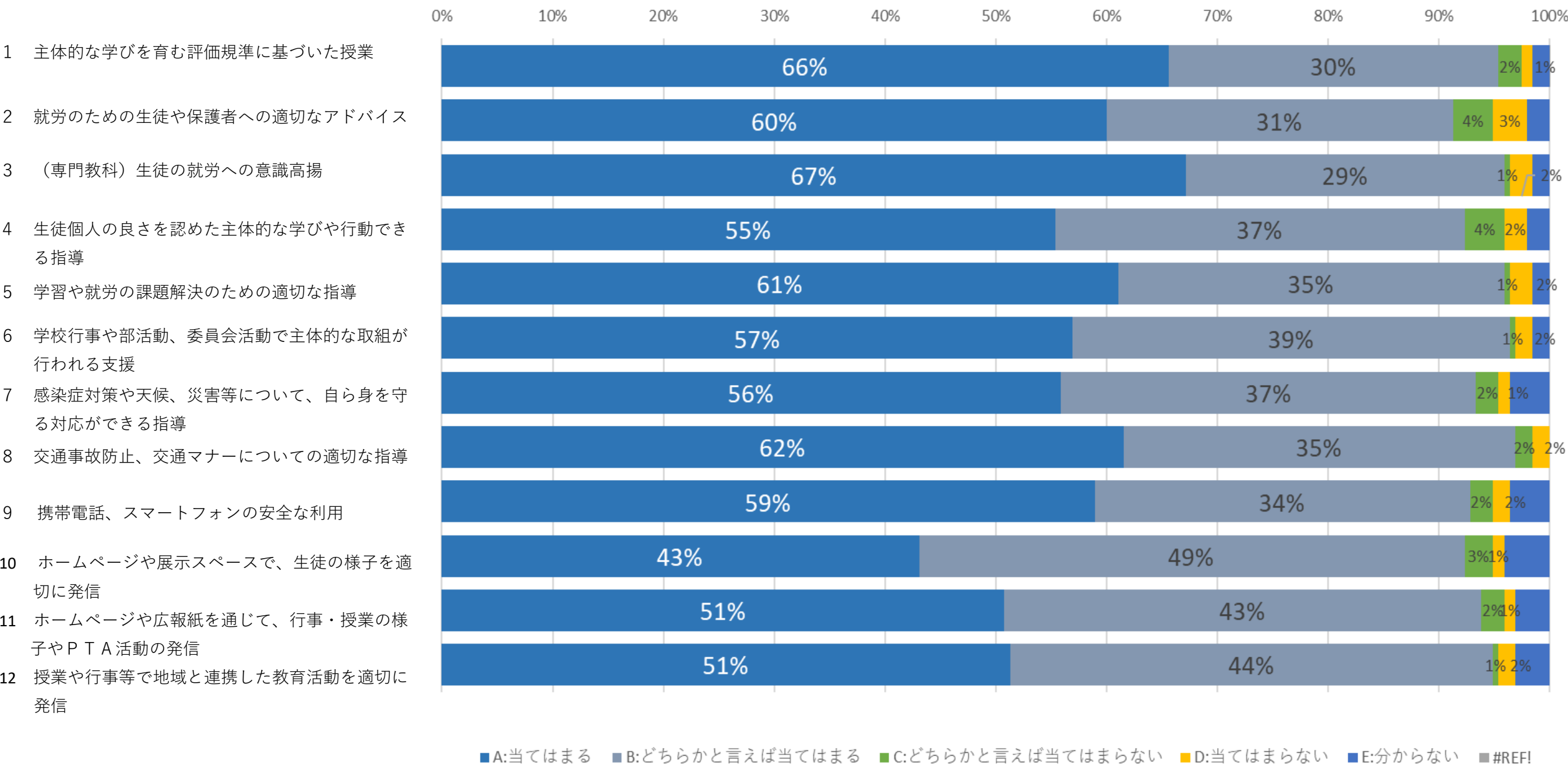
- ・4段階の評価において A と B 評価が11項目中 9 項目で8割を超えた。
- ・3割程度の生徒がホームページや展示物、広報紙を見る機会がまだ少ない。

傾向分析

- ・質問「４」について、自己理解をした上で自ら考え行動する設問で低い評価の回答があった。生徒自身が考えて行動し、自身の課題を改善しようとする場面がが少ないため、生徒自身が考える場面を多く設定していきたい。。
- ・質問「７」（校外での安全対策）登下校中の安全に関する事項で低めの評価をしている生徒がいる。様々な場面や時間を想定したシミュレーションをして考える機会を設定していきたい。
- ・質問「１０」（ホームページによる情報発信）についてはHPを見たことがない生徒が多かった。生徒には教科「情報」の授業等を活用していくとともに、コンテンツの充実を図り学校HPへの興味を持たせたい。

令和４年度 学校評価アンケート（保護者対象）

回答総数：195



○保護者対象アンケートに基づく評価：概ね達成した

4段階の評価においてAとB評価が12項目すべてにおいて9割以上であった。

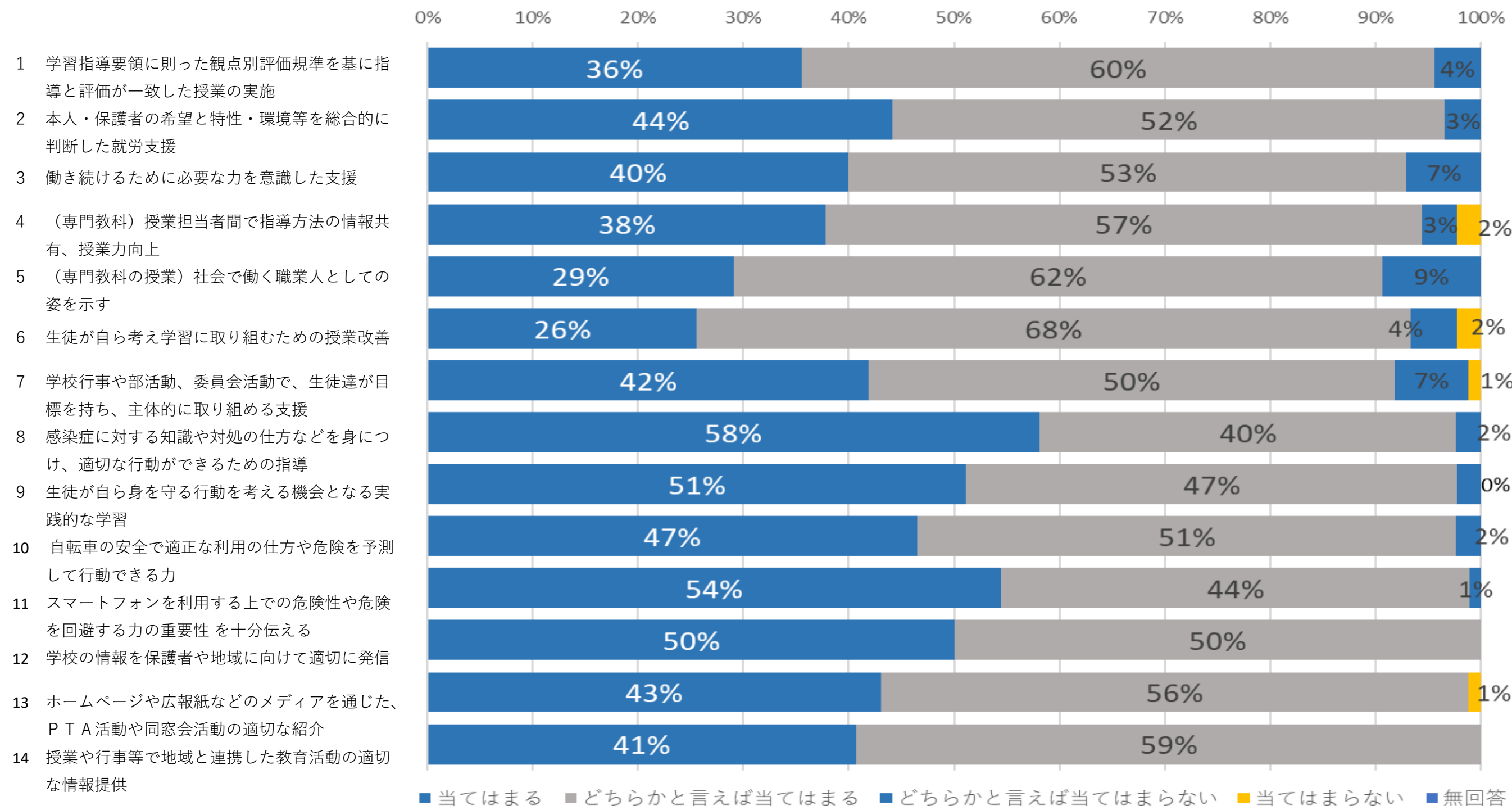
傾向分析

・質問項目「2」（就労のための生徒や保護者への適切なアドバイス）ではC＋Dの割合が7％とやや高かった。就労支援担当者と担任が連携して保護者へ情報を提供、説明していきたい。

・質問項目「4」（生徒個人の良さを認めた主体的な学びや行動できる指導）ではC＋Dの割合が6％であった。生徒に分かりやすく提示し評価を工夫していくことで、主体的な学びや行動ができるようにしていきたい。

令和4年度 学校評価（職員自己評価）

回答総数：90



○教職員自己評価結果：概ね達成した

4段階の評価において A と B 評価の割合が14項目中14項目において9割以上であった。

傾向分析

- ・質問項目「5」（職業人としての姿を示す）については、Cの割合が9％とやや高かった。指導体制に課題が見られた。これまでの取組の成果と課題を分野間で共有できるような体制を構築していく。
- ・質問項目「7」（学校行事や部活動、委員会活動で、生徒達が目標を持ち、主体的に取り組める支援）については、C＋Dの割合が8％とやや高かった。各行事で生徒の意見や考えを取り入れるように教員への周知を図っていきたい。